



さざんか

かとう学園 宗像市立河東中学校
学校通信第35号(R5. 11. 1)

バスケットボール部男子宗像区大会準優勝で筑前地区大会に進出! テニス部、筑前地区大会でベスト8進出!

10月28日(土)29日(日)、日の里中と津屋崎中体育館で開催された宗像区新人バスケットボール大会で、本校男子バスケットボール部は準優勝しました。そのため、11月25日(土)に粕屋東中学校で開催される筑前地区新人バスケットボール大会への進出が決まりました。

また、同日、筑前地区新人ソフトテニス大会団体戦も開かれ、本校テニス部は予選リーグを勝ち抜き決勝トーナメントに進出し、筑前ベスト8に入りました。

今週末には今シーズン最後の宗像区新人大会である卓球大会があります。また、宗像区中学生スピーチコンテストも開催されるので、みんなで応援していきましょう。

授業研修の風景

先週は、3本の授業研修のための公開授業が行われました。そのうち、宮城先生の数学の授業の様子は前号でお知らせしましたので、今号では藤岡先生と清水先生の公開授業の様子を紹介します。

藤岡先生(理科)

10月27日(金)7年6組で行われた藤岡先生による理科の公開授業。物質の姿と状態変化の単元で、実験の在り方や手法を研究する授業が公開されました。

理科の醍醐味は実験にあると言えるでしょう。河東中では2室ある理科室をフルに使って日々実験が行われています。今回、7年生は混合物である赤ワインから、純物質であるアルコールを抽出する実験に取り組みました。沸点の差を考え、利用することで赤ワインからエタノールを取り出すことに成功しました。7年生も少しずつ中学校の実験に慣れてきました。



清水先生(数学)

10月27日(金)9年2組で行われた清水先生による数学科の公開授業。中学校で学習する関数を総動員して考える授業。面白い課題に出会うと参観者もつい問題に取り組みたくなるものです。教頭先生は仕事そっちのけで問題を解いていました。



1 辺の長さが 2 cmの正方形を階段ピラミッド形に並べていきます。段数が増えることにより変化する数量を関数として考えていきました。つまり、高さ・周の長さ・枚数・面積など変化するわけですが、表や式・グラフを利用して関数として問題を解いていきました。タブレットのロイノートを使ってグループごとにまとめていきましたが、現象を数式に表現できる面白さ満載の清水先生の授業でした。

心温まるちょっといい話 ～ 石川県の先生が書いた文章より ～

私(校長)には、障がいを持ったところがいます。小さい時の病気が原因で、ずっと体が不自由です。今、60才を越えています。施設で元気に暮らしています。母方の親せきが集まると、いとこだけでも17人いるのでたいへんなにぎわいです。私たちが小さいころ、その障がいを持つところには、かわるがわる食事の世話をしたり、話すことの内容をお互いに一生懸命探ったりしました。子どもたちの食卓では常にその子が中心にあたたかなにぎわいがありました。今でもその光景が思い出に残っていますし、そうした感性を自然に教えてくれたいとこたちを誇りに思います。しかし、世間ではそうとは限らないことを子ども心に感じていました。いや、大人になってからもそうです。



今回、紹介するのは石川県の特別支援学校に勤めている山元加津子先生が書かれた文章です。心温まる話なので読んでみてください。山元先生が受け持った障がいのある「きいちゃん」という高校生とそのお姉さんの話です。

お姉さんの結婚式には、浴衣をぬってあげようと提案しました。でも、きいちゃんは手が不自由なので、きょうまくぬえないだろうなと思っていました。けれど、一針でも二針でもいいし、ミシンもあるし、私もお手伝いしてもいいからと思っていました。けれど、きいちゃんは頑張りました。最初は手に血豆をいっぱい作って、血をたくさん流しながら練習しました。一生懸命にほとんど一人で仕上げたのです。とても素敵な浴衣になったので、お姉さんのところに急いで送りました。するとお姉さんから電話がかかってきました。きいちゃんだけでなく、私も結婚式に出てくださいというのです。

お母さんの気持ちを考えてどうしようかと思いましたが、お母さんにうかがうと、「それがあの子の気持ちですから出てやってください」とおっしゃるので、出ることにしました。お姉さんはとてもきれいで、幸せそうでした。でも、きいちゃんの姿を見て、何かひそひそ話をする方がおられるので、私は、きいちゃんはどう思っているのだろう、来ないほうがよかったんだろうかと思っていました。そんなときにお色直しからとびらを開けて出てこられたお姉さんは、驚いたことに、きいちゃんがぬったあの浴衣を着ていました。一生に一度、あれも着たいこれも着たいと思う披露宴に、きいちゃんの浴衣を来てくださったのです。そして、お姉さんは旦那さんとなられる方とマイクの前に立たれ、私ときいちゃんをそばに呼んで次のようなお話をされたのです。

「この浴衣は、私の妹がぬってくれました。私の妹は小さいときに高い熱が出て、手足が不自由です。でも、こんなに素敵な浴衣をぬってくれたんです。高校生でこんな素敵な浴衣がぬえる人は、いったい何人いるでしょうか。妹は小さいときに病気になって、家族から離れて生活しなければなりません。私のことをうらんでいるんじゃないかと思ったこともありました。でもそうじゃなくて、私のためにこんなに素敵な浴衣をぬってくれたんです。私はこれから妹のことを、大切に誇りに思って生きていこうと思います」

会場から大きな大きな拍手がわきました。きいちゃんもとてもうれしそうでした。お姉さんは、それまで何もできない子という思いできいちゃんを見ていたそうです。でもそうじゃなとわかったときに、きいちゃんはきいちゃんとして生まれて、きいちゃんとして生きてきた。これからもきいちゃんとして生きていくのに、もしここでかすようなことがあったら、きいちゃんの人生はどんなにさびしいものになるだろう。この子はこの子でいいんだ、それが素敵なんだということを皆さんの前で話されたのです。きいちゃんはそのことがあってから、とても明るくなりました。そして「私は和裁を習いたい」と言って、和裁を一生の仕事に選んだのです。